

## 華語新聞から読むマレーシア

篠崎香織

マレーシアのマスメディアは、しばしば以下のように評価される——「マレーシアのマスメディアは政府や与党、その取り巻きの実業家が所有している。また印刷出版法や扇動法、治安維持法、公文書機密法など報道の自由を制限する様々な法律がある。メディアは営業停止を恐れ、報道の範囲を自ら制限する『セルフセンサーシップ』を働かせる。それゆえマレーシアのメディアは、中立性・独立性を欠く」。

マレーシアのマスメディアが政府や与党の干渉を受けやすい環境にあることは確かである。そのためなのか、表になかなか現れない「真実」を暴くことで公正を世に問うような報道は、あまり見られない。マレーシアのマスメディアは、政府の言うことをそのまま流しており、大本營的であるとする見方もある。他方でそうした報道は、表に見える事柄を丹念に拾い、自分の代表者の仕事ぶりを観察する材料を日々読者に提供していると見ることもできる。そうした報道スタイルは、華語(中国語)で書かれた日刊紙(以下、華語新聞)に特に顕著であるように思われる。

マレーシアでは、特に半島部で、自分の民族の代表者を通じて政治に参加する仕組みが構築されてきた。ある個人が自分の利益が守られていると判断する基準は、自分が所属する民族が政府から正当な扱いを受けているかに置かれる。また、他の民族が政府からどのように扱われるかを観察し、政府の多民族社会の運営状況を確認し、自分たちがどのように扱われうるかを測る。そうした観察材料を、華語新聞は日々拾い、提供している。

2007年11月25日にクアラルンプールで発

生したヒンドラフ(Hindu Rights Action Force: Hindraf)支持者と治安当局との衝突を例に取ろう。英語新聞やマレー語新聞では関連報道が11月21日頃から唐突に現れ、インド系住民が突然怒りを表明したような印象を持つ。これに対して華語新聞からは、インド系住民の怒りを招く出来事が直前に起こっていたことが分かる。

2006年から2007年にかけてペラ、スランゴール、ヌグリスンビラン、マラッカなど半島部各地で、不法占拠地の強制撤去を行う際にヒンドゥー寺院が破壊されるケースが多発し、インド系住民が不満を抱いていた。これらの寺院は、植民地期にインド人労働者によってプランテーションなどに設立され、脱植民地期にそれらの土地が州や市当局に接収されるに伴い非合法の存在となったものである。ヒンドラフはインド系住民の不満の声を取りまとめ、州や市の首長や関係省庁、司法機関、国際機関などに嘆願書を送るなどしていた。そのような中、2007年10月30日にシャーアラムで作業員や警官300人による大規模な不法占拠地の撤去が行われ、ヒンドゥー教寺院が取り壊された。

これについて英語新聞では、唯一スターが首都圏ページで取り上げたが、家の撤去を止めるよう作業員に訴える人や激しい口論も見られたが、それ以上の事態には進展しなかったと報じたのみであった。これに対して華語新聞では、星洲日報や中国報などが、撤去作業中に作業員・警官と住民が激しく衝突し、10人が負傷したと大きく報じた。その後も約10日間、住民の当惑や悲しみ・怒りの声、野党議員が国会でこの問題を取り上げるよう動議を出したが却下され

表 1: マレーシアにおける日刊紙の言語別 1 日当たり平均発行部数 (2008 年 1 月 1 日～6 月 30 日)

	全国合計		半島部		サラワク州		サバ州	
	平日版	日曜版	平日版	日曜版	平日版	日曜版	平日版	日曜版
英語新聞	889,343	650,243	739,474	494,203	68,097	72,647	81,772	83,393
マレー語新聞	920,179	1,301,255	869,742	1,285,747	44,237	—	6,200	7,941
華語新聞	1,163,414	—	909,308	—	177,634	—	76,472	—

Audit Bureau of Circulations Report, *Circulation Figures for the period ending 30 June 2008*に基づき筆者作成。英語新聞 8 紙、マレー語新聞 5 紙、華語新聞 13 紙を含む。英語新聞とマレー語新聞は、日曜日とそれ以外でタイトルが異なるものが多く(例えば *New Straits Times* の日曜日のタイトルは *New Sunday Times*)、個別に集計されている。

表 2: 主な華語新聞の 1 日当たり平均発行部数 (2008 年 1 月 1 日～6 月 30 日)

新聞名	部数	所有者と主に読まれている地域
星洲日報(Sin Chew Daily)	427,975	Rimbunan Hijau(常青集団)。半島部全般とサラワク。
中国報(China Press)	157,100	Huaren Holdings(MCA 投資会社)+ Ezywood Options(Rimbunan Hijau 社長所有企業)。スランゴール、ペラ、KL、ジョホール。
南洋商報(Nanyang Siang Pau)	105,480	Huaren Holdings+Ezywood Options。半島部全般。
光明日報(Guang Ming)	101,907	Rimbunan Hijau。ペナン、クダ、スランゴール、KL。
東方日報(Oriental Daily)	100,204	KTS グループ(啓徳行集団、サラワク州拠点企業)。スランゴール、KL。
詩華日報(See Hua Daily News)	76,833	KTS グループ(啓徳行集団、サラワク州拠点企業)。サバ、サラワク。
光華日報(Kwang Wah Yit Poh)	71,709	Boon Siew Holdings。ペナン、クダ。

出所: Audit Bureau of Circulations Report, *Circulation Figures for the period ending 30 June 2008* 南洋商報のみ 2006 年 7 月 1 日から 2007 年 6 月 30 日の統計。ちなみに他の言語の新聞で 1 日当たりの平均発行部数が最多なのは、英語新聞ではスター(約 31 万部)、マレー語新聞では平日はハリアン・トロ(約 33 万部)、日曜はウトゥサン・マレーシア(約 47 万部)。

たこと、野党がヒンドゥー教徒をそそのかして混乱を惹起したとするスランゴール政府の見解、ヒンドゥー教徒は不法に土地を占領されている他の民族の感情を考慮すべきだとのスランゴール州首席大臣の見解などが報道された。またマレーシアインド人会議(MIC)に対して問題解決のために介入を求め、さらに、ヒンドゥー教以外の宗教も宗教施設の建設許可がなかなか下りないなど同様に困難な境遇にあると指摘し、どの宗教の信徒も自由に宗教を实践できるよう政府に求める論説も見られた。

星洲日報の鄭丁賢(Tay Tian Yan)副編集長は、しばしば政府を痛烈に批判する。28 日付同紙には、ヒンドラフの集会は政治的陰謀であり黒幕はアンワルだとするナズリ首相府大臣(当時)の発言記事のすぐ隣に、政府幹部は状況をまだよく理解しておらず、発言は迷走しており、

ナズリの発言には思わず噴き出してしまうとする鄭副編集長の論説が掲載された。同副編集長は、ヒンドラフは野党と協同することもあるが、一定の距離をおき、独自に草の根の活動を展開し、それによってインド人の支持を得たのだと指摘する<sup>1</sup>。

国境なき記者団による報道の自由度ランキングで、マレーシアは 173 カ国中 132 位。だがこの数字は、マレーシアのジャーナリズムの質そのものを示す数字では決してない。

<sup>1</sup> 事実報道においては「大本營的」に見えるスターだが、論説では政府の対応を批判する記事が見られた。ウォン・チュンワイ総編集長は、政治指導者たちが疎外化・周縁化を感じているインド人の声に耳を傾けてこなかったのは民族間の権力分配に明け暮れてきたからだと指摘した。アズミ・シャロムは、与党関係者は選挙やしかるべきチャンネルを通じて不満を表明せよと言うが、そのチャンネルが機能しないからこそ人びとは街頭に繰り出したのだと論じた。